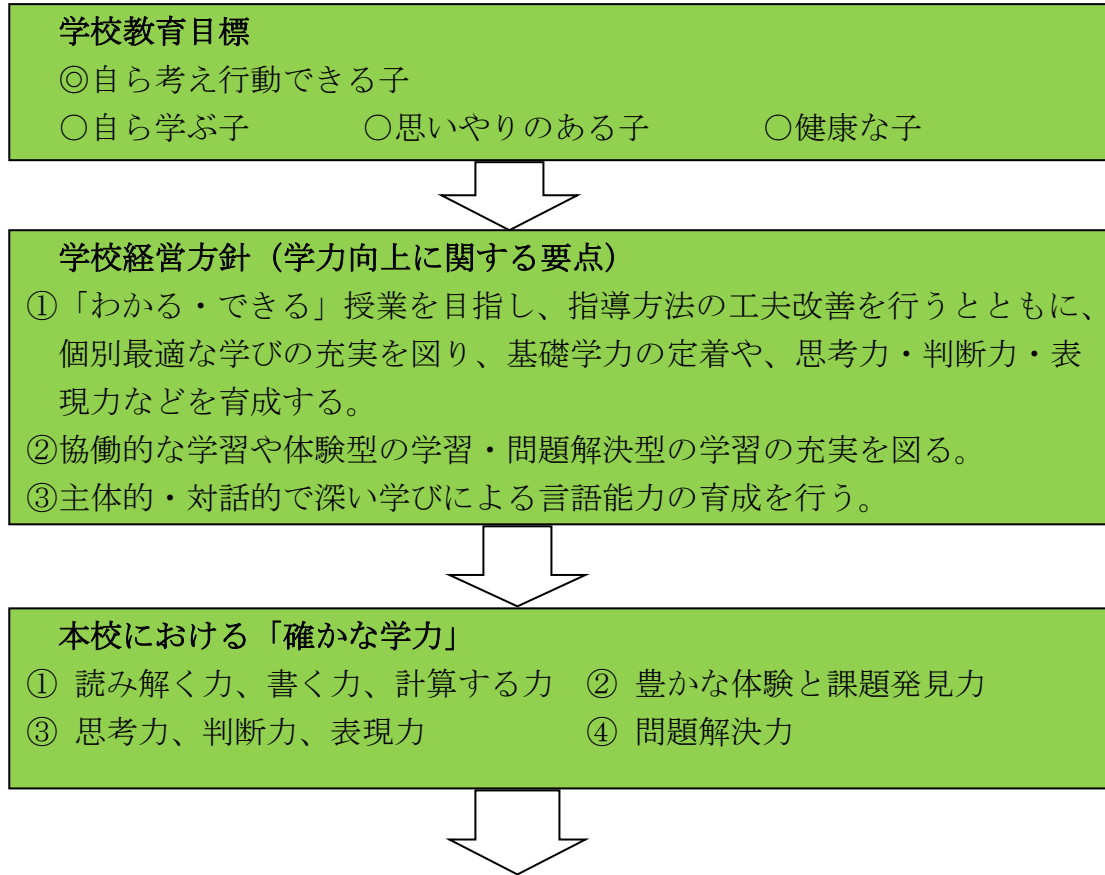


令和5・6年度 授業改善推進プラン

学力向上を図るための全体計画



本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫
○1 単位時間のめあてを板書等で明確にし、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○他者と協働して問題を解決したり、言語による分析やまとめ、表現活動を行ったりする。 ○算数科では1年生より習熟度別指導を行う。 ○ICT機器やタブレット端末を効果的に活用する。 ○東京ベーシック・ドリルを計画的に活用する。	○朝読書の時間を設定し、児童の読書量を増やす。 ○朝学習の時間を設定し、基礎学力の定着を図る時間とする。 ○各教科と生活科・総合的な学習の時間を関連付け、学びのつながりを図る。 ○幼保小を円滑につなぐために1年生では4月当初にスタートカリキュラムを実施する。	○授業交流や交換授業を行い、教師が互いの授業を見合って指導力の向上を図る。 ○児童に自力解決の力を身に付けさせるために、各教科における問題解決学習の効果高める探究型の学習の進め方を研究する。	○評価規準を明確にし、評価を指導に生かす。 ○授業記録を通して学習状況を適切に把握し、児童一人一人のよさを引き出し、課題を明確にする。 ○児童自身が学習を振り返る機会を大切にし、自己評価を今後の学習に生かす。	○日常の教育活動を積極的に公開し、外部評価を真摯に受け止め改善する。 ○地域の教材を活用することにより、学ぶ意欲や地域への関心、意欲を高める。 ○保護者の承諾のもと、全学年児童を対象に、地域未来塾を実施し、家庭学習の支援及び基礎学力の定着を図る。